

第1学年1組 道徳科指導案

- 1 主題名 主体的な社会参画 内容項目 [C 社会参画、公共の精神]
- 2 ねらい 主人公の野口健さんの言葉である「人間には『したいこと』と『しなければいけないこと』がある」という言葉の意味を考える活動を通して、社会参画の意義を理解し、人任せにせず、自ら役割と責任を果たし、よりよい社会の実現に貢献しようとする道徳的判断力を育てる。
- 教材名 次は清掃登山に挑戦だ（出典：彩の国の道徳（中学校）『自分をみつめて』）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

指導内容項目 C-（1 2）は、社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めることを目指すものである。

中学生の時期は、望ましい行動とは、何なのかを考え、次第にわかってくる時期である。しかし、その場の雰囲気や自分の感情に流されて、望ましい行動を自主的に行うべきだとわかつていてもできないことがある。その結果、他者に迷惑をかけたり、不安定な集団生活につながったりする。

人任せにしないで、自ら役割を担い、責任を果たしていくことで、自分も他者もよりよく生活できる。それを理解し、私利私欲に負けず、望ましい行動の意味を深く考え、判断し、よりよい社会の実現に努めようとする道徳的判断力を育てたい。

（2）これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級には、学習や清掃、部活動、行事など、様々な活動に意欲的に取り組む生徒が多い。特に清掃では、みんなが気持ちよく生活するために、隅々まで目を配り、細やかな清掃をしている生徒が多く見られる。

しかし、自分勝手な楽しさを優先してしまい、授業規律や、授業前の3分前着席を守れず、仲間に迷惑をかけてしまうことがある。

本時では、級友との対話を通して、社会参画の難しさを理解し、社会参画をするために必要な資質を、多面的・多角的に学ばせる。特に、「しなければいけないこと」を、ルールとして決まっているからという機械的に捉えるのではなく、その行動の価値を理解して、自ら必要感をもって行動に移す生き方が大切であることに気づかせたい。そして、自分や他者がよりよく生きるために、自ら役割と責任を果たし、よりよい社会の実現に貢献していこうとする道徳的判断力を育てる。

（3）教材の特質や活用方法について

主人公の野口健さんは、登山家として活動していた。野口さんは、エベレストを登る時、山に大量のゴミが捨てられているのを見た。「清掃しよう」という仲間の言葉に、始めは後ろ向きたが、協力する。その際、野口さんは、富士山も大量のゴミで汚くなっていることを聞き、衝

撃を受ける。その後、野口さんは清掃登山を開始する。活動を進めていくと、たくさんの仲間が参加し、ゴミのない綺麗な山を維持することができている。そんな活動をする中で野口さんは、ただ登山をするだけではなく、山を綺麗にするという、「人間には『したいこと』と、『しなければいけないことがある』」ことに気づくという教材である。

本時の導入では、題材に興味を持たせるように指導したい。具体的には、テレビで野口さんの写真を提示しながら、彼が大好きな登山をするだけではなく、ある時から清掃登山という活動もしていることを紹介し、野口さんの行動の変化に疑問を持たせる。

展開前段では、清掃登山に消極的だった野口さんが、意欲的に取り組みを進める場面に注目させ、清掃登山を始める前と後で、野口さんの中でみんなのために行動したいという意欲や、自分が山を綺麗にするなどの使命感が芽生えたことに気づかせる。その際、交流や発言を通して、多面的・多角的に考え、その意欲や使命感、思いやりなどが社会参画に必要な価値であると理解させる。(価値理解)。また、生徒に野口さんの立場になった時、野口さんの気持ちに共感できるか聞き、清掃は大切だけど、早く登りたいという気持ちが勝ってしまうという、人間の弱さに気づかせる(人間理解)。

展開後段では、中心発問として、野口さんの「人間には『したいこと』と、『しなければならないこと』がある」という発言の意味を考えさせる。特に、「しなければいけないこと」は、ルールやマナーなど、決まっているから守るだけではなく、みんなにとって必要だからまず自分が行動しようという、主体的な「しなければいけない」を実践することが大切であると理解させたい。また、学びを深める補助発問をし、主体的な「しなければいけない」を実践するために必要なことは何かを考えさせ、未来を前向きに考えたり、自分事として捉えたりするなど、実践意欲を育みたい(価値理解、他者理解)。

終末では、導入と展開で学んだことを振り返り、自分たちの考えが変容していることを自覚させ、今後の生き方に生かしていこうとする態度を育てる。

4 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1. 本時の学習へ関心を向ける。</p> <p>●野口健さんの写真を見る。</p> <p>○名前と仕事を知っていますか。</p> <p>2. 本時のテーマ、めあてを知る。</p> <p>●野口さんが清掃登山をしている写真を見る。</p> <p>○野口さんはなぜ清掃をしているのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none">・知らない。・登山家の人の。 <ul style="list-style-type: none">・汚いから。・必要だと思ったから。	<ul style="list-style-type: none">・テレビに野口さんの写真を提示し、視覚的に題材のイメージを持たせ、学習への関心を高めさせる。

よりよい社会のために大切なことは何だろう

展開	<p>3. 資料提示する。(範読)</p> <p>4. 野口さんの心情の変化について考える。</p> <p>【人間の弱さを理解する発問】</p> <p>○隊長のラッセルが「ゴミを拾おう」と言った時、野口さんはどんな気持ちだったかな。(人間理解)</p> <p>【野口さんの心情の変化についての発問】</p> <p>○清掃登山を始めた野口さんは、どんな心情の変化があったかのだろうか。</p> <p>【補助発問】</p> <p>○清掃登山をする前とする後の野口さんは、どんなことが違う。(価値理解)</p> <p>○自分が野口さんだとしたら、清掃するか、しないか。(人間理解)</p> <p>【切り返し発問】</p> <p>○しなければ、ずっと汚いままだけど、それでいいのかな。</p> <p>○誰かがやってくれるのを待つ人になるか。いつになつたら自分から行動するのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登山がしたいのに、清掃はやりたくない。 ・大事な登山の前に疲れたくないし、怪我もしていて大変だ。 ・怒り、悔しい。 ・日本人としての誇りを大切にしたい。 ・山に恩返しをしたい。 ・する前は、自分優先で、清掃を面倒だと思っている。 ・始めた時は、みんなを優先し、使命感があり、やる気に満ちている。 ・する。やったほうがいいから。 ・しない。登山に集中したいから。面倒だから 	<p>☆社会参画という道徳的価値を実践することの難しさを理解しているか。</p> <p>【発言・交流】</p> <p>・先の発問と関連付けて、野口さんの心境に変化があったことに気づかせる。</p> <p>☆自律や自由と責任、公共の精神などの道徳的価値と、社会参画の関係について、多面的・多角的に考えている。</p> <p>【発言・ノート】</p>
----	--	--	---

	<p>【中心発問】</p> <p>○「『したいこと』と、『しなければいけないこと』がある」はどんな意味なのか。 (価値理解、他者理解) 班で交流し、全体で共有する。</p> <p>【中心発問を深める発問】</p> <p>○みんなの「しなければいけない」と野口さんの「しなければいけない」は少し違うのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・したいことは、自分の好きなことや、趣味。 ・しなければいけないことは、ルールやマナー。みんな、全体に関係すること。 ・野口さんは、「必要だ」「自分がやらなければいけない」「やつてみたい」など、主体性や意欲がある。 	<p>☆「『したいこと』と『しなければいけないこと』」について考え、社会参画という道徳的価値を実践することの難しさを理解するとともに、実践するために大切なことを考えている。</p> <p>【発言・ノート・交流】</p>
終末	<p>5. 振り返りをする。</p> <p>○よりよい社会のために大切なことは何だろう。</p> <p>●本時の学びを振り返り、ノートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を考える。 ・自分から考える。 ・未来を考える。 ・自分事として捉える。 ・前向きに考える。 <p>みんながしたいことをすると、みんなが困る。だから、全体のことや将来のことを考え、自分から行動できれば、社会のためになると思った。でも、自分でやらずに、見て見ぬふりをしてしまう時もあるので、少しずつ行動に移せるよう、まずやってみるという姿勢を大切にして生活したい。</p>	

5 他の教育活動との関連

日常生活との関連を重要視しつつ、今学期後半に控えている体験活動との関連を図りたい。授業や教科の提出物、清掃など、日々の生活にある「しなければいけないこと」を、何のためにするか、どうしたらもっとよくなるかを考えながら実践できるとよい。(例: 自主的なお手伝い、いわゆる「見つけ清掃」など)

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 「清掃登山をしようと決意した野口さん的心情の変化」について、自律や自由と責任、公共の精神などの道徳的価値と、社会参画の関係について、多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分とのかかわりで深めている様子】

- 「『したいこと』と『しなければいけないこと』」について考え、社会参画という道徳的価値を実践することの難しさを理解するとともに、実践するために大切なことを考えている。

7 板書計画

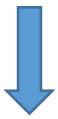
次は清掃登山に挑戦だ 社会参画

より良い生活のために大切なことは何だろう

○清掃したくない

- ・早くのぼりたい
- ・怪我もしているし

「富士山も汚いぞ」
清掃登山開始！



● 「『したいこと』と、『しなければいけないこと』がある」
どんな意味なのか？

(しなければいけないこと)

(したいこと)
自分の好きなこと。
趣味。

ルールやマナー。みんな、全体に関
係すること。

野口さんは・・・

必要だ。やるとみんな嬉しい。

やってみよう！

主体性・意欲がある。

(やらされ感ない)

振り返り

